

市川サイエンス②⑩

論文の内容（確認）

論文は「論文フォーマット」を見ながら作成すること。ここでは見落としがちな点を確認する。

1. はじめに

- 対象となる現象を定義しているか。
- 研究の背景が述べられているか。
- 先行研究を引用しているか。
- 自分の研究の目的は述べられているか。

II. 手法

- 他の人が実験を再現できるように書かれているか。
- 実験装置の型番、試薬の等級や製造元を載せているか。
- 結果の統計処理の方法を述べているか。
- 人、脊椎動物（魚類以外）、細菌を使った研究では、審査を受けたことを明記しているか。

III. 結果

- 事実のみを書いているか（自分の意見は書かない）。
- 図表のタイトル・説明では、図は下、表は上に書かれているか。
- 図やグラフは白黒印刷でも判別可能か。

IV. 考察

- 結果から考えられることが書かれているか。
= 結果からは導き出せないことが書かれていないか。
- 論理的な矛盾や飛躍はないか。
- 具体的な結果を用いて説明できているか。
- 自分の考えについて、先行研究を引用して補強できたか。

V. 結論

- この研究で明らかになったことを述べているか。
- 「1. はじめに」で示した目的に対応しているか。

文献

- 論文は雑誌名・号数・掲載ページまで書かれているか。
- 書籍は出版社名・掲載ページまで書かれているか。
- Webページは、URL、閲覧日まで書かれているか。
- Webで閲覧した論文は、雑誌論文の体裁で書かれているか。
- 2行目以降、全角2字分下げているか。

文献

一ノ瀬友博(2006)：大阪市中心部の街路樹と越冬期の鳥類の出現状況の関係：ランドスケープ研究 69(5).

金子与止男・斉藤友彦・斉藤航来(2019)：岩手県滝沢森林公園における 25 年間の鳥類観記録。森林野生動物研究会誌。

加藤和弘・若山睦月(2017)：千葉市西部の住宅地における鳥類相を規定する要因：ランドスケープ研究 80(5).

平野敏明(1996)：宇都宮市戸祭山における繁殖期の鳥類相-最近 25 年間の変化-.

由井正敏(1992)：野鳥調査とデータ解析の手法。森林総合研究所東北支所。日本環境動物昆虫学会。